

「確かな学力を保障する指導の研究」
—書く活動を通し、伝え合う力を育む指導の工夫—

I 研究の内容

1. 研究の目標

学習活動において、(A)のように、どの子にも自分の考えを持たせる「書く活動」を取り入れ、(B)のような「伝え合い、学び合う場」の中で交流すれば、(C)の確かな学力の要素である思考力・判断力・表現力が育まれ、「伝え合う力」が高まることを、授業研究を通して明らかにする。

(B) 「伝え合い、学び合う場」の設定による考えの交流

- ・自分で思考し、選択し、理由付けをしながら考えを交流し、共感、比較、分類、関連づけ等、学び合い、高め合うことができる活動を通して自他の考え方のよさに気づき、課題を解決したりする学習活動を仕組む。
- ・ペア、班、グループ学習等多様な発表形態を設定する。

(A) 「書く活動」の工夫

- ・書く活動を分析し、どの子にも書けるようにしていくスモールステップの工夫。及び思考力・判断力向上を意図した書く活動の充実。
 - ・自分なりに工夫し、追求した考えを言葉や文、図や式などで表現する。
- 【留意点】
- ・ノート、一枚ポートフォリオ、討論カード、アドバースカード等、書く活動に関わるワークシートの工夫。

(C) 「確かな学力」を支える要素

- ・思考力…問題場面に直面したとき、その事態を分析し、既存の知識・理解、技能などを統合して問題の解決のために新しいアイデアを作り出す力。
- ・判断力…問題解決に際して、いくつかの選択肢を用意し、その中から最適な選択肢を選んで自分の意志決定を行う力であり、その意志決定に至るまでの論拠の合理性が重要である。
- ・表現力…考え、感じたことなどを具体的な「発言」や「文章として」相手や場面に配慮しつつ、わかりやすく伝達する力。

◎伝え合う力

相手の立場や考えを尊重しながら、言葉を通してお互いの考え方を双方向に意思疎通していくなかで、お互いの考え方のよさを認め合い、かかわりあい、高まり合うこと

2. 研究の具体的内容

- (1) 「書く活動」を思考・判断へとつなげる手だて。
- (2) 伝え合う力の低・中・高別のとらえ方について
- (3) 実態調査に基づいた授業実践と指導法の工夫
- (4) 授業公開（一人一実践）
- (5) 特別支援教育についての学習会（学習支援の事例交流も含めて）
- (6) 今日的教育課題関連の学習（学習指導要領改定、学力テストの分析等）

3. 研究の方法

- (1) 部会は、「低学年部会」「中学年部会」「高学年部会」の3部会とし研究の効率化を図るとともに全体で確認された研究の観点に沿った実践を各部会で進め、研究の深化を図る。特に書く活動から伝え合う場へのアプローチ、伝え合う力のとらえ、授業のプロセス化を意識した実践につなげていくために部会での研究に重点を置く。必要に応じて部会を開催する。
- (2) 低、中、高別にそれぞれ1本ずつ全体研究授業を設定する。（指導主事招請）
- (3) 研究授業をする教員以外全員、一人一実践として授業公開を行う。（評価制度関連授業とあわせ）
- (4) 特別支援教育についての学習会・情報交換を学習支援担当の協力を得ながら行う。

II 成果と課題

【成果】

- ・ 書く活動の分析と伝え合う力について共通理解を行った上で研究を進めたので、授業研究が焦点化でき、深められた。また、各部会で児童の実態をアンケート等で見つめ直し、実態に合ったテーマを設定することができた。年間を通して児童の変容も見られた。
- ・ 算数や理科では文章だけでなく絵や図表も書く活動の一つであることを改めて認識することができた。
- ・ 書くことが思考であり、書くことが表現活動（コミュニケーション）の手助けになることがわかった。
- ・ 一つの教科に絞らずに授業研究を行ったので学習の共通部分やその教科の特質など様々な視点から学ぶことができた。
- ・ 一人一実践により、発問の仕方、掲示の仕方、発表の仕方、ワークシートの使用方法など多くの先生の優れた実践を知る機会が得られたし、自分でも意識して取り組むことができた。
- ・ 一人一実践は、それぞれが研究主題に向けて取り組めるので一部の研究ではなく全員での校内研という意識が持ててよい。（一人の百歩より百人の一步）今後もできたら続けたい。

【課題】

- ・ 新しい教育課程の中で今までの研究成果をいかに生かしていくか。
- ・ いろいろな授業・教科での実践をしてきたので本校なりのモデル化ができていけるとよいと思う。
- ・ 新学習指導要領の内容を生かした授業づくり。（習得型、活用型、探求型の授業づくり）
- ・ 「書く、読む、考える」という一連の流れを考えた単元計画をもとにした授業づくりの研究。
- ・ 国語科の書くと他教科の書くでは、何をどのように書かせていくのか、ねらいが違ってくるため、ねらうものを明確にし、その実現に向けての具体的な手だてを講じていくことが必要になる。それぞれの教科の特質を生かしながら言語活動の充実を図ることが課題。
- ・ 「伝えること」から「伝え合うこと」にステップアップしていくための手だて。伝え合う場面の様々な方法。
- ・ 英語の研修は、基本的には、校内研究と切り離して行うほうがよいと思うが、一部、校内研究の中で扱うことも良いのではないか。

III 成果物

1. 全体研究授業指導案（ワークシート、伝え合う力の視点表も含む）
 - 低学年部会 2年国語「一本の木」渡邊祥子教諭
 - 中学年部会 3年理科「磁石につけよう」内田絵里奈教諭
 - 高学年部会 5年算数「平行四辺形と三角形の面積」日原英二教諭
2. 授業公開指導案（一人一実践）
 - 1年国語「知らせたいな 見せたいな」小野真理子教諭
 - 国語「ずうっとずうっと大好きだよ」山縣重人教諭
 - 道徳「だれのを先にしようかな」竹川きよみ教諭
 - 2年国語「何に見えるかな」海野朱美教諭
 - 学級活動「あなたはどっち」野沢浩一教諭
 - 3年国語「まちの絵地図をつくろう」小林光三教諭
 - 4年算数「折れ線グラフ」雨宮義仁教諭
 - 国語「すてきなあなた」丸山英子教諭
 - 音楽「曲の気分を感じとろう」藤原和美教諭
 - 算数「割り算の筆算」T・T柳沢晴子教諭 雨宮義仁教諭
 - 5年道徳「体の不自由な方の立場に立って」的場泰子教諭
 - 道徳「命がないとはじまらん」水上久美子教諭
 - 6年社会「全国統一への動き」植原彰教諭
 - 国語「本はともだち ポップづくり」保坂千恵子教諭
 - 国語「詩の授業」雨宮久教諭
 - けやき学級「お店やを開こう」矢崎三枝子、那口真知子教諭
 - たんぼぼ学級「ものの名前」相澤京子教諭

(研究主任 雨宮 義仁)